Ｊ Ｐ子どもの森づくり運動
2020年活動報告

2020年12月

NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

目次

１．「東北復興グリーンウェイブ2020」
１）東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動レポート
２）東北の“どんぐり”の苗木を受け取る活動レポート
３）東北の“どんぐり”の苗木を植える活動レポート
２．【withコロナ】秋の体験活動
１）「自然・環境体験講座全国キャラバン2020」活動レポート
２）「園庭緑化運動」モデル事業レポート
３）「保育防災認定講座」シミュレーション講座レポート
４）「♪どんぐりえがおでつながろう・プロジェクト」レポート
３．普及・広報活動
１）活動リスト
２）掲載紙

【ＪＰ子どもの森づくり運動の2020年をふり返って】

2020年は、新型コロナ感染症で始まり、残念ながら感染状況が改善されないままで終わろうとしています。この感染症下の中で、ＪＰ子どもの森づくり運動（特別協賛：日本郵政グループ）の参加園においても、エッセンシャルワーカーとしての厳しい保育の1年となったことと思われます。

運動の運営事務局（子森ネット）においても、感染症下における幼児(少)期の自然・環境体験活動の意義、そして樹を育てる活動の意義等、感染症対応との間で活動の“そもそも”をつきつめ直す重要な年となりました。

ＪＰ子どもの森づくり運動では、2020年、「東北復興グリーンウェイブ」等、これまで継続していただいている活動と共に、感染症対応の厳しい保育の期間をただ耐えるだけではなく“こんな時だからこそ”をキーワードに、「保育力」のスキルアップを目指す期間とする四つの活動を提案させていただきました。**「自然・環境体験活動全国キャラバン」、「園庭緑化運動」、「保育防災アクションマイスター認定講座」、『「♪どんぐりえがお」でつながろう・プロジェクト』**の四つです。感染症下の長いトンネルが抜けて保育の日常が戻ったとき、ただ前に戻るのではなく、より良い保育づくりを目指す保育者をサポートする活動です。

幸い、参加園の皆さんにご共感いただき、着実に成果を積み上げさせていただきました。以下、年末にあたり、年内の活動について報告させていただきます。日本郵政グループの皆様と共に達成した成果です。ご共有いただければ幸いです。

紙面の都合で、ダイジェストな活動報告です。
活動の詳細についてはホームページをご覧いただけますようお願い申し上げます。

2020年12月
NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

1．「東北復興グリーンウェイブ2020」

1）「東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動」実施園リスト

2020年の「東北復興グリーンウェイブ」における岩手県宮古市での植樹活動は、新型コロナ感染症対応のため来春まで延期となりました。ただ、全国の参加園で育てた東北の“どんぐり”の苗木を、「東日本大震災」の被災地に送り返す活動は、それぞれの参加園の園内で完結する活動として実施は園の判断に委ねました。今年届けられた苗木は、宮古市の「あかまえこども園」で管理され、来春、宮古市や福島県の植樹フィールドに植えられる予定です。

NO		園名	見送る会	受領日	苗木本数	その他
1	北海道	新琴似中央保育園		5月14日	6	
2	広島県	山本まごころ保育園	5月15日	17日	2	別紙レポートあり
3	広島県	春日野まごころ保育園	5月15日	18日	12	別紙レポートあり
4	岡山県	操南保育園		20日	2	
5	千葉県	今井保育園		21日	6	
6	大分県	ももぞのこども園		22日	9	
7	広島県	みのり愛児園		22日	3	
8	広島県	まごころ保育園		22日	6	
9	広島県	広島キリスト教社会館保育所		22日	3	
10	三重県	ひばり保育園		22日	4	
11	石川県	平和こども園	5月21日	22日	9	別紙レポートあり
12	東京都	中目黒駅前保育園		22日	17	
13	大分県	旦の原保育園		22日	1	
14	静岡県	エンゼル幼稚園		23日	12	
15	新潟県	竹野町保育園①	5月22日	23日	45	別紙レポートあり
16	三重県	三重愛育保育園		23日	10	
17	東京都	新宿せいが子ども園		25日	4	
		合計			151	

２）東北の”どんぐり“の苗木を見送る活動レポート

広島県「山本まごころ保育園」

■日時：2020年5月15日(金)
■会場：自園園庭
■参加園児数：23名（年長）
■送付苗木本数：6本
■日本郵政グループ：安佐南郵便局（配送車）

【園からのメッセージ】
広島も5月いっぱい保育園は自粛要請となっていますが、今のところ出席率６０％くらいです。
今回の「どんぐりを見送る会」は自粛のため、（行事としての）会もせず、郵便局長にもご遠慮していただきました。ただ、配送車の手配だけはしてもらい、苗木を見送ることができました。
いつもの人形劇などは6月の誕生会の時に、保育士が配役を決めて、劇にしようかと思っています。
6月から普通通りになることを祈っています。

山本まごころ保育園　園長　植田和稔

広島県「春日野まごころ保育園」

■日時：2020年5月15日(金)
■会場：自園園庭
■参加園児数：52人
■送付苗木本数：6本
■日本郵政グループ：安佐南郵便局（配送車）

【園からのメッセージ】
今年もどんぐりの苗を送らせていただきました。
「樫の木とクヌギさん」のペープサートをみんなで見て、保育園の「にじいろの森」に育っている大切などんぐりの木を大事にしていこうと思いました。今年も小さなどんぐりの芽が育っています。
ゆめ組（年少）の時から大切に育ててきたどんぐりの苗木たち、東北で立派な木になってくれるよう願っています。

春日野まごころ保育園

大分県「ももぞのこども園」

■日時：2020年5月19日(火)　　■送付苗木本数：９本

■会場：自園園庭　　■参加園児数：19人

【園からのメッセージ】

2020年5月19日(火)に、東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動を行いました。

まず、子どもたちへ「東北ってどこにあるのかな？」「岩手県って聞いたことある？」などと問いかけ、地図を見ながらみんなで岩手県探しをしました。自分たちが住んでいる大分県から岩手県が離れていることを知り、「遠いね！と驚いている姿も見られました。

今年は9本の“どんぐり”が成長しました。

「１，２，３・・・・・・９！」「いっぱい育ったね♪」と嬉しそうでした。箱に詰める際には、「無事に届きますように！」と、願いを込めていました。

このような活動を通して、離れていても「どんぐりの絆」で子どもたちの心が繋がり続け、少しでも復興の手助けを行えたらと思っています。

石川県「穴水平和こども園」

■日時：2020年5月21日(木)
■会場：自園園庭
■参加園児数：８名
■送付苗木本数：
■日本郵政グループ：穴水郵便局　山下局長

【園からのメッセージ】
日吉園長の挨拶、穴水郵便局　山下局長様のご挨拶の後、年長児8名がドングリの苗木を慎重に段ボール箱に入れて、岩手県・あかまえこども園宛に送りました。荷物を載せた郵便車が見えなくなるまで手を振っていました。

新潟県「竹野町保育園」

【園からのメッセージ】

5月22日にどんぐりの苗45ポットを送らせていただきました。

今年度は新型コロナウィルス感染症の影響により、東北での植樹会も延期となってしまいましたが、一日も早く感染症が収束し、どんぐりの苗木が東北で大きく育ってくれることを願っています。

竹野町保育園

２）東北の“どんぐり”の苗木を受取りました。

岩手県「あかまえこども園」

2020年5月に全国の参加園が送ってくれたた「東北の“どんぐり”の苗木」が、岩手県宮古市「あかまえこども園」さんに届きました。

●小関園長先生のコメント

コロナ対応で大変なときに、子どもたちの思いがこもった苗木を送っていただきありがとうございます！

全国の子どもたちの思いを引き継いで、大切に育てていきます。

●高橋主任先生のコメント

全国の子どもたちの思いを、東北の子どもたちに伝えながら育てていきます。任せてください。

苗木を運ぶ「どんぐりのえがおBOX」の前で記念撮影です。

全国から寄せられたメッセージ

全国から18園、149本の苗木が届きました。

3）東北の“どんぐり”の苗木を植える活動

福島県「伊達こども園」秋の植樹活動①

■日　　時：2020年11月5日(木)　10:00～11:00
■会　　場：「伊達こども園」園庭
■主　　催：認定こども園「伊達こども園」（早田園長）
■共　　催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
■特別協賛：日本郵政グループ
■参加園児数：植樹会　68名（年長児）　「♪どんぐりえがお」 225名（年長、年中、年少）

【植樹会】
まずは、内藤副園長先生のごあいさつです。
その後、日本郵政グループから、伊達郵便局の梅津局長さんと伏黒郵便局の坂下局長さんにご参加いただきました。代表して、梅津局長さんから活動への応援メッセージをいただきました。
（参加園児数：年長児68名）

今回の植樹活動では、秋田の小沼さんと福島の藤田さんの両森林インストラクターにご指導いただきました。
まずは、小沼さんから、“どんぐり”の森を育てる大切さについてお話しいただきました。

いよいよ、“どんぐり”の苗木を植えます。
今年は、“どんぐり”の苗木を6本植えました。今回の植樹活動を担当した年長さんが６つのグループに分かれて植えました。地元郵便局の梅津局長さんと坂下局長さんにもお手伝いいただきました。植えた後にみんなで「大きくなあ～れ！」とお祈りしました。

最後に、植えた“どんぐり”の苗木の前で、みんなで記念撮影です。今日植えられた“どんぐり”の苗木は、これから子どもたちによって大切に育てられます。

【♪どんぐりえがおでつながろう・プロジェクト】

植樹会に参加した年長さんに年少さんが合流して、みんなで「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」を歌いました。テーマソングを歌う活動は全国の参加園で実施されています。子どもたちの歌は収録してDVD 化され、全国の参加園に届けられます。「東北復興グリーンウェイブ」のスピリッツである“どんぐりの絆”を歌で体感してもらうことを目的とする活動です。

「伊達こども園」における“どんぐり”の苗木を植える活動と「♪どんぐりえがお」をみんなで歌う活動は、天候に恵まれ盛況で終えることができました。活動終了後、子どもたちは早速、植えられた苗木を見に集まっていました。

「伊達こども園」の園庭に植えられた被災地の子どもたちと全国の子どもたちが育てた“どんぐり”の苗木です。苗木は、これから同園の子どもたちによって、さらに大きく育てられると共に、子どもたちの成長を見守ってくれるでしょう。来年、またお会いしましょう。

２．【WITHコロナ】2020年秋の体験活動実施スケジュール

ＪＰ子どもの森づくり運動では、今秋、コロナ禍の厳しい保育の期間をただ耐えるだけではなく“こんな時だからこそ”をキーワードに「保育力」のスキルアップを目指す期間として、四つの活動を提案させていただきました。『自然・環境体験活動』『園庭緑化運動』『保育防災』、そして『「♪どんぐりえがお」で、どんぐりの絆を体感する活動』の四つです。 以下に、2020年の活動についてご報告します。

活動名	都道府県	園名	活動日時（予定）
1）「自然・環境体験講座」全国キャラバン	広島県	春日野まごころ保育園	10/6(火)
	香川県	丸亀ひまわりこども園	10/7(水)
	埼玉県	浦和ひなどり保育園	10/14(水)
	福岡県	味坂保育園	10/17(土)
2）「園庭緑化運動」モデル事業	静岡県	エンゼル幼稚園	3/27(金)、6/19(金) 9/4(金)、12/23(水)
	東京都	三茶こだま保育園	6/24(水)、7/29(水)、 10/28(水)、12/16(木)
	鹿児島県	こども園ほしのこ	7/1(水)、8/17(月) 11/2(月)、12/7(月)
3）「保育防災」シミュレーション講座	埼玉県	児玉保育園	10/27(火)
	新潟県	つくし幼稚園	11/18(水)
4）「♪どんぐりえがお」でつながろうプロジェクト	千葉県	今井保育園	10/29 (木)
	福井県	大野幼稚園	調整中
	岩手県	あかまえこども園	〃
	広島県	春日野まごころ保育園	11/26(木)
	〃	山本まごころ保育園	11/26(木)
	東京都	三茶こだま保育園	10/6 (火)
	〃	駒沢こだま保育園	10/6 (火)
	〃	新宿こだま保育園	10/29(木)
	〃	中目黒駅前保育園	10/26(月)
	埼玉県	児玉保育園	10/26 (月)
	鹿児島県	こども園ほしのこ	調整中
	福島県	伊達こども園	11/5(金)

１）「自然・環境体験講座全国キャラバン2020」活動レポート

広島県「春日野まごころ保育園」

■日時：2020年10月６日(火)　■会場：園裏山　■園児数：20名（保育者：８名）

屋外でのびのびと自由に遊ぶことは、子どもの発達にとって必要不可欠なことです。子どもたちの健やかな成長を目的とした五感を刺激しながら楽しく遊べるネイチャーゲームの実践と活用方法の講座を行いました。まずは、園児達と一緒に裏山でネイチャーゲームを行いました。・ノーズ　・森の色合わせ
・フィールドビンゴ

参加した園児達は森の中を駆け回り、様々な色や形などを探していました。

ネイチャーゲ 座学を行い、

香川県「丸亀ひまわりこども園」

■日時：2020年10月7日(水)　■会場：亀山城公園、園庭　■参加園児数：15名（保育者：10名）

ネイチャーゲームによって、「楽しさは学ぶ力」という考え方から「自然とふれあうことの楽しさ」「自然とふれあいながら人と人とがつながることの喜び」を感じとることができます。今季はゲームの実践とやり方について講座を開催しました。

自然体験プログラム（ネイチャーゲーム）を実践しました。今回のゲームは「ノーズ」と「森の色合わせ」「フィールドビンゴ」です。園児たちは、探検ルーペを使って、森の中にあるたくさんの色を探しながら、ビンゴカードに書かれた草花や虫なども見つけていました。

ゲームを　　的でした。

＜追記＞
去年の9月に拾ったどんぐりが発芽し、8月の暑さを乗り切った苗木が園庭で育っていました。子どもたちも水やりなど、こまめに面倒みてくれているようです。

埼玉県「浦和ひなどり保育園」

■日時：2020年10月14日(水)　■会場：保育園裏山　■参加園児数：21名（保育者：10名）

同園の子どもたちは、普段から園の裏山で外遊びを行っているので、子どもたち自然体験のネイチャーゲームに
積極的に参加してくれました。保育士の方々も一緒になってゲームに参加し、子どもたちの五感を刺激するためのノウハウを習得していただきました。

まずは、園児達と一緒に裏山でネイチャーゲームを行いました。
・ノーズ
・森の色合わせ
・フィールドビンゴ
自作の探検ルーペを使って、落ち葉や竹の葉などの色の違いを感じていました。

フィールドビンゴでは、きのこやコケなど普段注目しないものを発見し、形やにおいなどを友達と話し合っていました。

ネイチャーゲームの実践後、園舎内で保育士を対象にネイチャーゲームの活用方法について座学を行い、今後の保育に活用していただくためのノウハウを学んでいただきました。

保育士の方からはゲームの進行方法など活発な質問をいただき、今後の保育に役立てたいと
感想をいただきました。

福岡県「味坂保育園」

■日時：2020年10月17日(土)　■会場：園所有広場　■参加者数：12名（職員のみ）

今回の講座は、保育士の方々と一緒にネイチャーゲームを行い、今後の保育に役立てていただくためのノウハウを学んでいただきました。

子どもも大人も楽しめるのがネイチャーゲームの特徴です。楽しみながら自然について学べるゲームを行いました。（・ノーズ・生きもの当てゲーム・森の色合わせ　・フィールドビンゴ・サウンドマップ）

生きもの当てゲームでは、自分の背中に貼っている生きものを想像力を働かせて当てるゲームですが、なかなか正解を見つけられません。みなさん、子どものように無邪気になってゲームを楽しいんでいました。

フィールドビンゴでは、きのこやコケなど普段注目しないものを発見し、形やにおいなどを友達と話し合っていました。

参加された保育士さんからは、「大人も一緒に楽しめる」「保護者にも紹介したい」「明日から
すぐに実践できる」などの感想をいただきました。

2）「園庭緑化運動」モデル事業レポート

園庭を、単なる平坦な運動だけの場ではなく、幼児(少)期の子どもたちにとって多様な自然や環境のもっとも身近な体験フィールドでとして緑化、改善していこうという運動です。2020年度は、モデル事業として、全国3園において、国際校庭園庭連合日本支部代表の仙田考先生による研修会が定期的に開催されています。

1．静岡県「エンゼル幼稚園」

「園庭緑化運動」参加園シート

2．東京都「三茶こだま保育園」

「園庭緑化運動」参加園シート

3．鹿児島県「こども園ほしのこ」

「園庭緑化運動」参加園シート

3）「保育防災認定講座」シミュレーション講座レポート

今や災害列島化した我が国においては、保育・幼児教育施設（以下、保育施設）における防災対策は待ったなしです。しかしながら、そもそも多くの幼児(少)期の子どもたちを預かっている保育施設では、通常の防災対策は通用しません。ＪＰ子どもの森づくり運動では、これまで災害時に、三つの参加園が支援し合う**「災害時相互支援協力協定」**の締結を推進してまいりましたが、今年度より、もう一歩踏み込んだ保育施設における防災・減災の体制づくりに取り組みます。

【埼玉県「児玉保育園】

日時：2020年10月27日(火)

参加者数：20名

講師：消防庁アドバイザー　鎌田修広氏

座学のみではなく、緊急時の防災アクションを取り混ぜた実践的な保育防災講座が行なわれました。

最後に記念撮影で終了しました。

【新潟県「つくし幼稚園」】

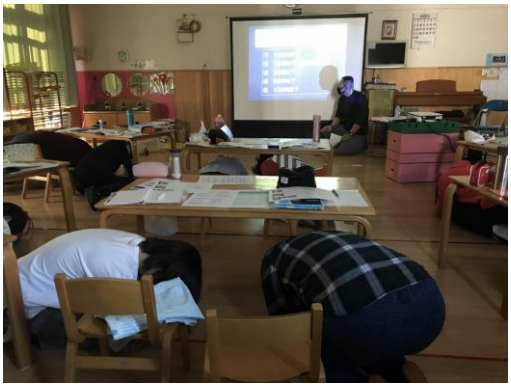
日時：2020年11月18日(水)

参加保育者数：15名

講師：消防庁アドバイザー　鎌田修広氏

今回の講座は、2021年春に開講を目指している「保育防災アクションマイスター認定講座」を、より保育の現場で活用できる内容とすることを目的に、そのシミュレーション講座として実施されました。

前半は、危機管理で大切な三つの要素「予測」「予防」「対応」等についてや、「東日本大震災」時に発生した「大川小学校」（宮城県）の悲劇から学ぶ座学が実施され、後半は園の保育者が、園舎の構造や園児の引き渡し方法等を書き出して可視化するワークショップが行なわれました。



鎌田講師からは、さらに園で準備されている防災の取り組みを積極的に保護者や地域社会に発信することが提案されました。最後に、記念撮影で終了しました。

４）「♪どんぐりえがおでつながろう・プロジェクト」

新型コロナ感染症下で、子どもと子ども、子どもと保育者の関係が断絶されがちな今だからこそ、「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」によって「絆」を実感してもらうことを目指す活動です。テーマソングを歌う活動は、全国の参加園で実施されています。子どもたちの歌と映像は収録してDVD 化され、全国の参加園に届けられます。

【東京都「三茶こだま保育園」】

・日時：2020年10月6日(火)

・参加園児数：18名

【東京都「駒沢こだま保育園」】

・日時：2020年10月6日(火)

・参加園児数：11名

【東京都「中目黒保育園」】

・日時：2020年10月26日(月)

・参加園児数：24名

【埼玉県「児玉保育園」】

・日時：2020年10月26日(月)

・参加園児数：33名

【千葉県「今井保育園」】

・日時：2020年10月29日(木)

・参加園児数：19名

【東京都「新宿こだま保育園」】

・日時：2020年10月29日(木)

・参加園児数：19名

【福島県「伊達こども園」】

・日時：2020年11月5日(木)

・参加園児数：225名

【広島県「春日野まごころ保育園」】

・日時：2020年11月26日(木)

・参加園児数：32名

【広島県「山本まごころ保育園」】

・日時：2020年11月26日(木)

・参加園児数：35名

3．普及･広報活動

1）活動リスト

実施（発信）日	活動名 / 主な内容
2020年4月	**「こども環境学会賞2019」活動賞受賞** 「東北復興グリーンウェイブ」の「こども環境学会活動賞」の受賞が、同会ホームページにおいて発表され、同会のホームページで紹介されました。 ⇒http://www.childrenenv.org/activity/%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%B3%9E/
2020年8月29日(土)	**「グッドライフアワードONLINEギャザリング2020」** 過去７年間の「グッドライフアワード」環境大臣賞受賞者が集う「ONLINEギャザリング」が開催され、子森ネットによるショートプレゼンテーションを実施しました。 ⇒https://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/goodlifeaward/report20200829gathering.html
2020年9月18日(金)	**「国連生物多様性の10年『グリーンウェイブ2020』」実施結果報道発表** 環境省の公式ホームページによる2020年度の「グリーンウェイブ」の活動報告です。 ⇒http://www.env.go.jp/press/108439.html 子森ネットは、「国連生物多様性の10年日本委員会」（UNDB-J）に任命されたオフィシャルパートナーとしてと活動団体として紹介されています。
2020年9月	**「国連生物多様性の10年日本委員会」（UNDB-J）せいかリレー** 2020年度で活動を終了するUNDB-Jのクロージング活動である「せいかリレー」に、11月5日に開催予定の「伊達こども園」における植樹活動をエントリーしました。 https://tayousei.com/2020/09/25/2591/　本活動は、2021年1月に実施予定のUNDB-Jクロージングイベントにおいて、紹介される予定です。
2020年9月	**「こども環境学研究」（2020年8月号）** 「こども環境学会」会報誌「こども環境学研究」（2020年8月号）において、「東北復興グリーンウェイブ」の「こども環境学会活動賞」受賞、及び「ポスターセッション」が掲載されました。（別紙、掲載紙あり）
2020年11月28日(土)	**「こども環境学会2021年大会(長野)プレ・セミナー」、及び各賞授賞式** コロナ禍で中止となった同会全国大会が、Onlineで開催されました。同時開催で、「こども環境学会賞2019」の表彰式が実施され、活動賞受賞団体として子森ネットによる活動発表が実施されました。
2020年12月19日(土) ～2021年1月17日(日)	**「エコライフ・フェア2020」Onlineに出展** 環境省主催の環境展「「エコライフ・フェア2020」Onlineに出展し、ＪＰ子どもの森づくり運動の活動発表、参加園募集、「全国集会＆研修会2021」の参加者募集を実施します。 http://ecolifefair.env.go.jp/　⇒　環境教育・環境政策　⇒子森ネット

2）掲載紙①

活動賞

NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

どんぐりの絆で育む共生の心

「JP子どもの森づくり運動東北復興グリーンウェイブ」

JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」活動風景

Vol.16, No.1 (C.N.45) August 2020

「こども環境学研究」活動賞受賞ページ

PS 非営利団体の活動 B1-02

JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」

清水 英二（NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク 代表理事）
塚原 茂（NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク 事務局長）

JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」

「こども環境学研究」ポスターセッションページ

こども環境学会賞　活動賞

《総評》

本年度は活動賞への応募総数が２件と過去最低の応募数となってしまいました。しかし、応募された活動内容は過去最高といえるほど、その分野では成果のある実践活動でした。

審査結果はどちらの応募についても活動賞受賞となりました。審査にあたられた多くの方が「従来には無かった目のつけどころをもった活動で評価に値する」「活動歴は浅いが今後の活動展開に大きな期待がもてる」「この活動を起点に多くの領域への波及的な効果が見込める」等の意見を掲げ、その活動内容について称賛の意を示されました。応募作の詳しい概要は審査員を代表した方々にお譲りするとして、委員会として何度も申し上げてきた、単にこどもが参加者となった一過性のイベント的な活動ではなく、大学等の教育機関が主体となった活動であっても地域との深い連携が見られ、エビデンスを持った継続性のある先駆的な活動に関する応募であった事を大変価値があると思っています。

昨年度より、実践的な活動を展開している組織・団体の主活動や発表の時期と応募期間との重複を避け、新たな応募期間を設けましたので、今回の応募を迷って見送られた皆さまの活動につきましても、積極的に挑戦していただきたいと思っております。

（活動賞選考委員長　神谷明宏）

世代や性別を超えて子どもの学びに参加できる場の提供であり、こうした取組みが全国に増えていくことを期待したい。

（小澤 紀美子）

《活動賞》

◆NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

どんぐりの絆で育む共生の心

「JP子どもの森づくり運動東北復興グリーンウェイブ」

この活動は、被災地の子ども達が拾ったどんぐりを全国の活動参加園に届け、受け取った園児達が園庭にどんぐりを植えて育てた苗木を３年目に被災地へ送り返し、東北の園児達が地元に植樹するというものである。つまり、子どもの手から手へと受け継がれるESD活動である。

始まりは「東日本大震災」の翌年2012年、岩手県山田町で子どもたちが拾ったどんぐりが全国に届けられたことからである。2014年には、山田町に戻った苗木が初めて植樹された。以来、毎年100本の苗木が山田町に届けられている。2019年10月現在、この活動は全国で94園の保育所・幼稚園・こども園に広がり、毎年約5000名の子ども達が活動している。

この活動への授賞は、これまでの継続性を評価するだけでなく、今後の継続を期待するという意味も込められている。参加した子ども達が大人になり、東北の復興に自らの手で参加できたことを実感する日が来ることによって、本当の意味で幼児期からのESD活動の成果が生まれるのではないだろうか。今後、さらなる継続と活動の広がりに、大きな意義があると考え、期待するものである。

（北方 美穂）

「こども環境学研究」活動賞審査員コメント

2）掲載紙②

小谷新聞　（昭和21. 2. 20 第三種郵便物承認）　第3899号　（4）

東日本大震災を例に
保育現場の防災学ぶ
つくし幼稚園職員ら

つくし幼稚園（大滝良子園長）は18日午後、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（清水英二代表理事、東京都）が企画・運営する「保育防災シミュレーション講座」を実施した。同園職員15人が参加し、改めて保育現場の防災や防犯について学んだ。

講師は中越大震災時に避難所ボランティア（段ボールによる更衣室設置など）として当市で支援活動の経験がある消防庁アドバイザー・鎌田修広さん（神奈川県藤沢市、㈱タフ・ジャパン代表）。「ピンチに直面するほど、人間は固まってしまうもの。そんな時には落ち着いて柔軟な思考、脱力が大切」と、職員の力自慢と指相撲対戦、力では抜けなかった親指を、脱力状態で簡単に抜いて見せた。

危険を知る「予測」、被害を防ぐ・減らす「予防」、正しく行動する「対応」の危機管理で大切な3つの原則を説明。他施設の取り組みをもとに、つくし幼稚園の所在地から得られる、過去災害・地盤強度・活断層などの情報サイト・アプリの活用方法や、防災・防犯・感染症などへの対策の大切さも紹介した。

防災に関しての〝罠〟として、「命が助かることを前提にすると、防災意識が高まらず、進まない」と指摘。東日本大震災時、徒歩で数分の裏山に、直ちに避難できなかったために、大勢の児童や教員が犠牲となった小学校のケースを例に、震災後に講師が撮影した裏山への避難経路動画を見ながら、正確な情報伝達の重要性を説明した。

後半のワークショップでは、職員が幼稚園の園舎構造、避難場所、災害時引き渡し方法、備蓄、各種訓練実施状況などを書き出して発表。可視化することでより分かりやすくなることを確認した。

大滝園長は「施設の細かな情報開示は、保護者の安心に繋がることを知った。今後は学んだことを参考に協議していきたい」と述べていた。

今回の講座は、同ネットワークが来春から開始する保育施設に特化した防災リーダーの養成を目指す「保育防災アクションマイスター認定講座」のプレ企画として行なわれた。

2020年11月19日(木)「小谷新聞」 つくし幼稚園「保育防災講座」